



ポンポンとバトンをしているが、取材日はバトンの練習。バトンが当たると青あざが出る。青あざが出来ない様に、バトンをうまく扱えるように

スポーツクラブ21・山手台のMガールズは、1〜6年生（現在は5年生）まで総勢20名が、山手台中学校のクラブハウスで、バトンの練習をしている。

なるには練習あるのみ。バト室内では出来ないもので外に出る上に投げ、受ける動作は練習していた。難しそうだ。

ひとつ発見!!バトンの長さには皆同じだと思っていたが、5cm刻みで長さがあることを知った。長くなるにしたがって重くなっていく。指導をする長谷川宏美先生は背がスラリと高く、とても

明かるい人柄。学生時代はバトンをしていて地元で教えた

練習日は、毎月第2、3、4土曜日の10〜12時まで。

飛んだり跳ねたりのびのびと

い。



個々に練習をする



発表会を終えて



練習を終えて「ハイポーズ」

今日はどれくらい基礎が出来ているか、先生が一人一人チェックする。上手に出来ていたらクマのプーさんのスタンプがもらえる。友達の手助けや、自ら手伝いをしてもらえ、子供たちはスタンプが増えるのも練習の楽しみの一つ。「皆がお互いに助け合って上手になり、自分たちで考え動くように」との先生の思

発表会は中山台ファミリーセンターの夏祭り、山手台中でのみんなまで遊ぼう。春は、中山台コミュニケーションセンターの子供館まつりがある。曲は毎年変え、一曲をレベルに合わせて振り付けを考え、構成し披露している。

1年生の時に友達と一緒に入り現在5年生の児童、3年生から入った4年生の児童も口々に「やってみて良かった」と。バトンに興味を持ち、体験に参加して、この日から入部した5年生。未来のバトントワラーたちだ。

世話係として練習日につき添う魚住千穂さんは「低学年から高学年の交流も子供たちには良い環境ですね」と話す。「コンテストを目指すのではなく、のびのびとバトンを楽しんで欲しい」と先生。

市民の

あそび場 II

Mガールズ